

建築の一大イベント『ひろしま国際建築祭 2025』トークイベントおよび親子で参加できるワークショップ開催

APPENDIX

■トークイベント1 登壇者

◎伊東豊雄（建築家）



©中村 絵

1941年生まれ。65年東京大学工学部建築学科卒業。主な作品に「せんだいメディアテーク」、「多摩美術大学図書館（八王子キャンパス）」、「みんなの森 ぎふメディアコスモス」、「台中国家歌劇院」（台湾）など。近作に「水戸市民会館」、「茨木市文化・子育て複合施設 おにクル」、「EXPO ホール 2025」などがある。現在、「国家児童未来館」（台湾）などが進行中。

日本建築学会賞（作品賞、大賞）、ヴェネチア・ビエンナーレ金獅子賞、王立英国建築家協会（RIBA）ロイヤルゴールドメダル、高松宮殿下記念世界文化賞、プリツカー建築賞、UIA ゴールドメダルなど受賞。2011年に私塾「伊東建築塾」を設立。これからのまちや建築を考える場として様々な活動を行っている。また、自身のミュージアムが建つ愛媛県今治市大三島においては、塾生有志や地域の人々とともに継続的なまちづくりの活動に取り組んでいる。

◎鈴木久雄（写真家）



1984-91年 建築家磯崎新氏設計のバラウ・サン・ジョルディ構築記録をする。

1986年- 建築雑誌 El Croquis のメインカメラマンを務める。

1988年 鹿島出版会スペースデザイン SD 特集号 「ガウディとその師弟たち」

1991-93年 美術出版社「みづる」

ロマネスク教会建築をまとめた「ピレネー地方の建築」6回連載

1996年 ベネチアビエンナーレ 建築写真部門 招待作家

2012年 新建築社 a+u モノグラフィー 「La Luz Magica」

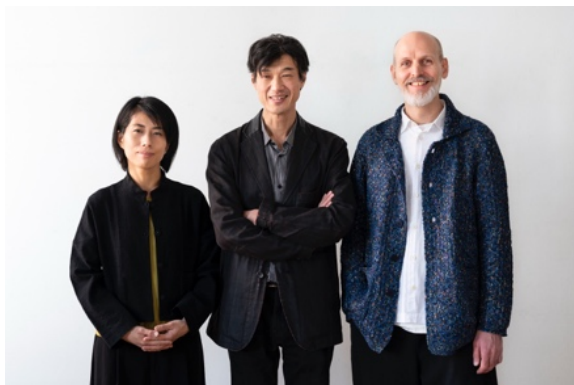
2012年- RCR Bunka 財団主催のワークショップ Lab-A 写真部門ディレクター

2014年 新建築社 a+u モノグラフィー 「Super Model」建築模型特集

2017年 日経アーキテクチュア 単行本 「建築のチカラ」

2022年 40年間にわたる写真記録活動に対しスペイン国カタルーニャ州政府より「サン・ジョルディ十字勲章」(Creu Sant Jordi)を授与される。

◎Clouds Architecture Office（建築家）



©GION

Clouds Architecture Office は建築設計・アート・リサーチ分野の幅広い知見を統合する創造性に焦点をあてた活動を目的として、曾野正之（1970年生まれ）とオスタッパ・ルダケヴィッチ（1973年生まれ）によりニューヨークで2010年設立。2015年曾野祐子参加。理念と実体験の交点を探る環境の知覚体験を根幹に置く設計手法により多様なプロジェクトを提案し、これまでに住宅・公共施設からパブリックアートや宇宙建築に至る幅広い設計に携わる。Clouds AO（クラウド・アオ）の設計過程における特徴は、必要なプログラムに対する徹底したリサーチ及び多面的なデザイン・スタディを通じ最良の解法を導くプロセス重視のアプローチにある。2015年 NASA 火星基地設計コンペ優勝、同コンセプトの NASA との共同設計を開始。2018年 ANA と JAXA による宇宙開発実証実験施設「AVATAR X LAB」を発表。2022年には福岡の複合施設「010 BUILDING」を手がけた。現在ウクライナでの3Dプリントによる復興支援プロジェクトを Serendix、国連工業開発機関と共に進行中。

◎石上純也（建築家）



©CHIKASHI SUZUKI

1974 年生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修士課程修了後、妹島和世建築設計事務所を経て、2004 年石上純也建築設計事務所を設立。

主な作品に、神奈川工科大学 KAIT 工房・KAIT 広場、Park Groot Vijversburg ビジターセンター、水庭、2019 年サーペントインパヴィリオン、House & Restaurant、水の美術館など。

2009 年日本建築学会賞（作品）、2010 年第 12 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞、毎日デザイン賞、2019 年芸術選奨文部科学大臣新人賞（美術部門）、OBEL AWARD、2024 年フレデリック・キースラー建築芸術賞、2024 年日本建築学会賞(作品)など受賞多数。

■トークイベント 2 登壇者

◎藤本寿徳（建築家）



1967 年山口県生まれ。1991 年早稲田大学理工学部建築学科卒業。1991 年より安藤忠雄建築研究所、1994 年より NASCA への勤務を経て、1998 年に藤本寿徳建築設計事務所を設立。瀬戸内の風土に惹かれ、独立に際し広島県福山市を拠点とする。数多くの住宅を手がけ、主な受賞歴に、日事連建築賞優秀賞、ひろしま建築文化賞優秀賞、JIA 中国建築大賞優秀賞、日本建築学会作品選集、などがある。現在、安田女子大学講師。

◎前田圭介（建築家）



©藤塚光政

1974 年、広島県福山市生まれ。2003 年 UID 設立。

故郷「広島県福山市」を拠点に国内外でインターローカルな設計活動を行い、建築・庭・街といった内外の境界を一体的に捉えた空間を探索している。

福山市内では『ホロコースト記念館』にて Dedalo Minosse 2007 /2008 国際建築賞 Under40 グランプリ(イタリア)、こどもえんつくし乳児棟『Peanuts』にて 2012 年こども環境学会賞 デザイン賞、2013 年日事連建築賞 国土交通大臣賞。『福山本通・船町商店街アーケード 改修プロジェクト-とおり町 Street garden-』にてグッドデザイン賞 2017 グッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）。

『santo』にて 2024 年日本建築学会作品選奨を受賞。その他、第 11 回 ARCASIA 建築賞 ゴールドメダル(Asia)、第 24 回 JIA 新人賞、Design Vanguard 2014 選出（米国）、AR House 2016 Winner（英国）など受賞。

◎藤井英博（後山山荘オーナー）



1951 年広島県福山市生まれ。幼少期、海水浴のため毎年鞆の浦を訪れていた。大学以降は東京に住み、証券会社に勤務。2009 年、リタイアを目前にして心境の変化が生じ、故郷とのつながりを求めて後山山荘のある敷地を購入。敷地から見える鞆の浦の景色が購入の決め手となった。55 年間の東京での生活を終え、現在は広島市に拠点を移している。

◎松隈章（竹中工務店、聴竹居倶楽部代表理事）



1957 年 兵庫県生まれ。株式会社 竹中工務店 設計本部設計企画部所属、経営企画室 サステナビリティ推進部兼務。一般社団法人 聴竹居倶楽部 代表理事。公益財団法人 竹中大工道具館 評議員。北海道大学建築工学科卒業後、竹中工務店入社。建築設計業務の傍ら近代建築の保存活用や数多くの建築展、美術展に携わる。主な著書『聴竹居 藤井厚二の木造モダニズム建築』平凡社コロナブックス、『聴竹居 発見と再生の 22 年』ぴあ関西、『聴竹居 実測図集』彰国社。聴竹居の一連の活動に対して 2018 年度日本建築学会賞・業績賞及び日本イコモス賞を受賞。

◎谷藤史彦（下瀬美術館 元副館長）



1955 年生まれ。早稲田大学第二文学部卒業。京都大学大学院にて博士（人間・環境学）を取得。ふくやま美術館副館長、下瀬美術館副館長歴任。主な展覧会企画に、「アフロ プリッリ フォンタナ」、「武田五一・田辺淳吉・藤井厚二」、「フランク・ロイド・ライトと武田五一」、「マッキアイオーリ」、「キネティック・アート」、「ピカソ展」などがある。主な著書に、『ルチオ・フォンタナとイタリア二十世紀美術』（中央公論美術出版、2016 年）、『祭りばやしのなかで——評伝 高橋秀』（2015 年）、『武田五一的な装飾の極意』（2017 年）、『藤井厚二の和風モダン』（2019 年、いずれも水声社）などがある。

■トークイベント 3 登壇者

◎村上徹（建築家）



1949 年愛媛県今治市生まれ。1972 年広島工業大学工学部建築学科卒業。1972～75 年に内井昭蔵建徳設計事務所勤務で東京に居住。1976 年より村上徹建築設計事務所を広島市内に開設。以後、広島を拠点として、住宅、教育施設、庁舎などの建築設計活動を主に瀬戸内圏内で行う。また設計の傍ら、近畿大学工部、広島大学、広島工業大学にて非常勤講師を歴任。主な受賞としては、1990 年「坂町のアトリエ」で新日本建築家協会新人賞、1994 年「阿品の家をはじめとする一連の住宅」で日本建築学会賞（作品）、1997 年「庵治町役場の設計」で芸術選奨文部大臣新人賞（美術）などがある。1998 年より広島工業大学環境学部教授、2019 年より同大学名誉教授。

◎山本理顕（建築家）



1945 年、北京生まれ。建築家・山本理顕設計工場。

日本大学理工学部建築学科卒業、東京藝術大学大学院美術研究科建築専攻修了、東京大学生産技術研究所原広司研究室研究生。

2007-2011 年横浜国立大学大学院教授、2018-2022 年名古屋造形大学学長、2022-2024 年東京藝術大学客員教授、2024 年より神奈川大学客員教授、横浜国立大学名誉教授・名誉博士。

主な作品に GAZEBO、埼玉県立大学、公立はこだて未来大学、横須賀美術館、The CIRCLE チューリッヒ国際空港、名古屋造形大学など。桃園、天津、北京、ソウルなどでも複合施設、公共建築、集合住宅などを手掛ける。

主な著書に『新編 住居論』（平凡社）、『地域社会圏主義』（TWO VIRGINS）、『権力の空間/空間の権力』（講談社）、『都市美』（河出書房新社）、『山川さんの山川山荘』（TWO VIRGINS）、山本理顕 コミュニティーと建築』（平凡社）など。2001 年「第 57 回日本芸術院賞」、2024 年度プリツカー賞、文化庁長官表彰（国際芸術部門）受賞。

©Tom Welsh for The Hyatt Foundation Pritzker Architecture Prize

■トークイベント 4 登壇者

◎工藤桃子（一級建築士 / MMA Inc.代表取締役）



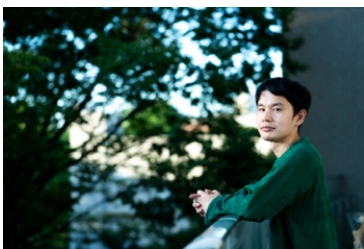
東京生まれ。幼少期をスイスで過ごす。多摩美術大学環境デザイン学科卒、組織設計勤務のち工学院大学藤森照信研究室修士課程修了。2016年にMMA Inc.を設立。建築設計のほか、インテリアデザイン、展覧会の会場構成も手がけている。2020～22年多摩美術大学非常勤講師。

出展作品

『MMA fragments』

建築家の工藤桃子が率いるMMAが、素材に対する独自のアプローチを「本」というメディアを通してさまざまな角度から読み解いていくジャーナル。MMAの目指す、人々の感情とフィジカルな体験に訴える、言葉では伝えきれない、無意識の美しさと普遍的な心地よさを想起させる空間づくりに触れられる一冊。MMAの実践を紹介しながら、より多くの人々にとって現代の建築について考えるきっかけとなることが目指されている。

◎森純平（interrobang 代表、建築家）



1985年生まれ。東京藝術大学建築科大学院修了。建築から時間を考え続け、舞台、展示、まちづくり等、状況を生み出す現場に身を置きつづける。2013年より千葉・松戸「PARADISE AIR」を設立。今まで500組以上のアーティストが街に滞在している。主な活動におっとり舎（2007～11）、MADLABO（2011～21）、遠野オフキャンパス（2015～）、ラーニングをテーマとした「八戸市美術館設計（西澤徹夫、浅子佳英と共に）」、たいけん美じゅつ場VIVA 基本設計（2019～）、有楽町アートアーバニズムYAU（2021-）、東京藝術大学芸術未来研究場特任准教授（2024～）。

出展作品

『新しい美術館ができるまで 八戸市美術館に関わった8人の場合』

八戸市美術館（2021年竣工）ができるまでのプロセスを、共同設計者である森純平氏が中心になってまとめた一冊。「つくること」だけでなく、その後の「つかっていくこと」も踏まえた美術館の姿、あるいはプロジェクトとしての建築が見据えられている。インタビューは、美術館の館長や学芸員、八戸市の職員、まちづくりのキーマン、そして設計事務所のスタッフとしてプロセスに関わった若き建築家たち。

モデレーター：

◎川勝真一（けんちくセンターCoAK）



1983年兵庫県生まれ。建築リサーチャー、キュレーター、建築センターCoAKディレクター。2008年京都工芸繊維大学大学院建築設計学専攻修了。2008～23年、RAD（Research for Architectural Domain）。2024年、建築センターCoAK（Center for Co-Architecture Kyoto）を設立。建築展覧会、市民参加型ワークショップ、都市やまちづくりのためのリサーチやキュレーション実践を通じ、建築と社会の関わり方を探っている。

■ワークショップ 1&3 講師

◎川島範久建築設計事務所（建築家）



1982 年、神奈川県生まれ。2005 年東京大学工学部建築学科卒業。2007 年東京大学大学院修士課程修了。2007～2014 年日建設計。2012 年 UC パークレー客員研究員。2014～2020 年東京工業大学助教。2016 年東京大学大学院博士課程修了、博士（工学）取得。2017 年川島範久建築設計事務所設立。現在、明治大学准教授、川島範久建築設計事務所代表。「自然とつながる建築」をめざして、デザインの実践と研究に取り組んでいる。

2014 年「NBF 大崎ビル（旧ソニーシティ大崎）」にて日本建築学会賞（作品）、2024 年「GOOD CYCLE BUILDING 001」にて日本建築学会作品選奨を受賞。主著に『環境シミュレーション建築デザイン実践ガイドブック 自然とつながる建築をめざして』（彰国社、2022 年）。

■ワークショップ 2 講師

◎羽根信一（羽根建築工房・手刻み同好会 代表）



有限会社羽根建築工房は大阪市に拠点を置き、「人の手と心で造りこむ、温かく美しい木の家」を理念に活動する工務店です。代表の羽根信一は、18 歳で大工として弟子入りして以来、数多くの住宅や建築家との協働を重ねてきました。

『ひろしま国際建築祭 2025』参加建築家の堀部安嗣氏の関西での住宅設計などに携わり、木組み手刻みの技術を活かした作品を数多く手がけています。2018 年には「手刻み同好会」を立ち上げ、大工の伝統技術を次世代へ継承する活動にも取り組んでいます。

◎報道関係者お問い合わせ先：

『ひろしま国際建築祭2025』

実行委員会事務局（一般財団法人神原・ツネイシ文化財団 内）

メール：pr@kambara-tsuneishi-foundation.jp（担当：守田美奈子）